



## 平成29年度全国安全週間に合わせて 滋賀労働局労働基準部長が安全パトロールを実施

滋賀労働局(局長 大山 剛二)では、製造業等において死亡災害が増加していることを受け、「全国安全週間」(7月1日～7日)の取組の1つとして、平成29年7月3日(月)に、ダイキン工業株式会社滋賀製作所(滋賀県草津市岡本町1000-2)において、滋賀労働局労働基準部長、大津労働基準監督署長等による安全パトロールを実施しました。

ダイキン工業株式会社滋賀製作所は、主に、ルームエアコン等の家庭用空調機器の設計及び製造を行っており、年間生産台数は約100万台とのことです。



ダイキン工業株式会社滋賀製作所

安全衛生活動の取組状況を確認したところ、特徴的な活動、好事例として以下の活動が展開されていました。

- ① 製作所運営及び安全衛生活動の大きなテーマとして、「ファイン&アメニティ」を掲げ、事業場内全域の快適化を図っている。
- ② 労働者が65歳まで健康に働けるよう、中期計画である「セーフティ&ヘルス2020」を策定し、労働者の健康増進にも積極的に取り組んでいる。特に、メンタルヘルス対策として、「メンタルタフネス」を重視し、講習等により労働者のメンタル面での耐性の強化を図っている。
- ③ 「教育訓練道場」を設置し、全労働者を対象に、はさまれ・巻き込まれ、残圧、電気等の危険性、重量物による腰痛リスク等について、危険体感教育を実施している。



教育訓練道場



重量物に対する危険体感教育

- ④ 動力を用いず、短距離の搬送、作業者の負荷軽減等のための装置である「カラクリ」等、各種設備を内製し、また、そのための教育、訓練にも取り組んでいる。
- ⑤ 組立等の一部ラインについては、作業者の腰痛を予防するため、適切な作業姿勢が取れるよう、ボタンを押すだけで作業台の高さが自動的に最適化されること。



材料搬送用のカラクリ



ワンタッチで高さ調整可能な作業台

- ⑥ リスクアセスメントを展開し、リスク評価を実施した機械設備には「リスクレベル」を表示し、設備ごとのリスクレベルが一見して判断できるようにしている
- ⑦ フォークリフトによる災害を防止するため、より安全性の高いAGV（構内自動搬送車）を積極的に活用したラインを構築している。
- ⑧ 体調不良者が、周囲のフォロー、ケアを受けられるよう、自己申告がしやすいシステムが構築されている。



リスクレベルの表示



AGVを積極活用

安全衛生活動の確認、工場内のパトロールを実施した結果、上記のとおり積極的な活動が行われていましたが、今後の労働災害防止のために、以下の事項を検討するよう求めました。

- ・ 各種活動が行われており、定常作業における災害発生の危険性は少ないものと考えられるため、非定常作業時の災害に注力して頂きたい。特に、不具合発生時の原則である「止めて、呼んで、待つ」は徹底されないことが多いため、教育により徹底を図りたい。
- ・ 構内の搬送車の速度がやや速い様に思われるため、速度が適切であるかどうか、今一度、安全衛生委員会において審議されたい。